

# 港北の消防

第59号

平成30年10月1日

編集

横浜市港北消防団  
(港北消防署内)

## 港北消防団

### 夏季訓練会に参加して

綱島地区連合自治会会長

佐藤 誠三

平成三十年度港北消防団夏季訓練会が、連日厳しい暑さが続く中、八月五日交通局新羽車両基地で実施されました。

開会式では、飯田港北消防団長より「近年の大地震や激甚化する風水害に対応するため地域の防災の担い手としての日々の訓練を披露するように」という訓示を受け、初めに分団代表による小型ポンプ操法競技が行われました。団員の皆さんは、仕事を終えてからの夜間訓練や、休日を返上しての訓練を積み重ねてきたそうです。どの分団も見事で、



この訓練会の一ヶ月前に、西日本豪雨災害が発生しました。鶴見川流域に位置する綱島は、かつて幾度となく水害に悩まされてきました。昭和五十年代以降治水が進み、新しく転入されてきた住民の中には水害があったことを全く知らない方もいるでしょう。ここ数年想定外の自然災害が多発しており、綱島でもいつ何が起きるかわかりません。

二万一千世帯を抱える綱島地区としては、地域住民と消防団の連携で「地域防災力」をより高め、減災できる安心安全な街づくりに努めていきたいと思っております。

消防団の皆様には、日頃より地域の防災活動に取り組み、ご尽力いただき心より感謝申し上げます。



日々の訓練の賜物だと心強く思いました。女性のみで構成される第八分団による規律ある訓練礼式、そして資機材取扱訓練と二斉放水では勇壮な姿を見せていただきました。

## 「平成三十年城郷小学校 総合的な学習」への支援

第一分団 部長 村田 庸明

城郷小学校が実施する四年生の総合学習について、第一分団により支援しました。参加した生徒たちは、消防団の活動に興味津々の様子でした。今後も、積極的に地域、学校、職場における防災思想の普及と消防団活動広報を進めていきます。生徒たちから届いた感想文を紹介します。

▼四年一組 市島 広汰

総合的な学習の時間に、城郷のまちの消防団の方々にお話を聞きました。消防団の人は、お休みの日に、てんげんや、せいびをしていなんて大へんだと思いました。ほくは、今まで町が安全なことが当たり前だと思つて、家や公園などで楽しく遊んでいました。けれども、消防団の人たちが守っているからこそこの城郷の町が安全なんだと知ることができました。消防団の人たちはやさしくて勇気があり、それに、かっこいいとおもいました。

▼四年二組 飯田 紗彩



わたしは、消防団の人が来てくれたとき、消防ほろしみたいになつて、かっこいいなと思いました。びちくこの中をみせていただいたとき、さつごもしてなかつた道ぐがいつばいあつてびつくりしました。何よりびつくりしたのは、ほにゆうびんと、こなミルクがあつたことです。赤ちゃんでも安心できると思ひました。消防ほろしのかたがたがいてくれるおかげで、さいがいがおきて、安心して思ひました。

▼四年三組 青木れんか

私は、消防団の人の、色々な話を聞いて、消防団ってかっこいいなと思ひました。理由は、町を守るために、消防車のでんげんや、消防せんのてんげんをしてくれているからです。はじめ、びちく倉庫の中をみて、おどろきました。それは、発電機や、百人分が三十分たけるすいはんき、車いす用のトイレがあつたからです。小さいへやに、いろいろな物があつた。たぐさんのことをしれて、楽しかったです。

## 第二分団 夏季訓練会に参加して

第二分団 第二班 班長 戸田 進

第二分団夏季訓練会は梅雨明けを思わせるような良い天気の中、六月三日に菊池公園プールサイドで行われました。今年は、安江港北消防署長をはじめとする消防署幹部の皆様、飯田港北消防団長をはじめとする消防団幹部の皆様のご臨席のもとで、第二分団の日頃の訓練成果を存分に披露することができました。

訓練会はほぼ例年通り、連続歩調及び訓練礼式、可搬式小型ポンプ操法の代表選手による披露、ロープ結策訓練、資機材展示(エンジンカットとチェーンソーの実演)、そして目玉である震災時救助・救護訓練、消防隊との連携放水訓練・一斉放水と、二時間の間に盛り沢山に詰め込んで実施しました。



震災時訓練は、大地震で家屋が倒壊しけが人が出ている想定で、デジタル無線による分団本部と各班間の無線通信から始めて、各班が分担して救助・救護を行い、火災の発生に対し消火活動を行うものです。今年には地域の家庭防災員がスタンバイパイプを使用した初期消火活動を行つて、消防団がそれを引き継ぐ訓練も加わりました。これまでは、各自自治会町内会の方々には見学していただいただけでしたが、消防団と地域住民との具体的な連携訓練ができたことは、とても良かったと思つてい

ます。

第二分団の担当地区は住宅密集地が多いので、このように緻密な訓練を続けていくことがとても重要だと感じました。

## 消防団員勧誘のジレンマ

第三分団 第一班 副班長 有吉 敏夫

平成三十年度における第三分団第一班の団員数は、部長以下八名です。最近では、勤務先の都合や体調不良等の理由で、他班の応援を受けたいと訓練会に参加できない状況になっていきます。平成二十四年度に私が入団して十三名になった団員数が、以降定年退団等がつづき団員の確保が厳しくなつてきています。来年度は、定年退団予定が三名で、団員数は五名になります。

この数年は、毎年入団の勧誘ヒラを町内全戸に配布したり、心当たりの数名に声をかけましたが、やっと一名の入団にこぎつけたにすぎません。

当該班の受持ち地区である錦が丘町内会の世帯数千弱のうち、ほとんどが会社員で、商店もしくは自営業は五、六件にすぎません。また、七十五歳以上の人口は約二十二%、六十五歳以上の単身又は夫婦のみ世帯は約二十%で少子化と高齢化の進んでいる地区です(平成二十九年八月港北のすがたより)。

このような中で、若い人に勧誘を行つても「残業や出張で消防団の会議や訓練に参加する時間が取れない」「土曜・日曜は趣味や休憩の時間を取りたい」等の理由で断られてしまいます。

私は六十歳の定年を機に入団しましたが、特に操法の訓練は結構体力的にきついものがありました。また再就職の仕事が想定より忙しく、訓練等に参加できない場面も多々ありました。さらに、団員数が少ないがために消防団活動に参加する頻度が高くなったり、積載車が出せない、あるいは休めないという事態になっていきます。勧誘の際には、この辺の事情を隠すわけにもいかず、それでも入団するという方は少ないと思ひます。今後、隣接する地区で融通が利かないものかと思つてしまいます。

今年度、篠原八幡の祭りが終わった後、改めて班長会議等の場で、団員確保について提案してみようと思ひます。何とか良い知恵をお借りして、消防団員の確保に努めていきたいと考えています。

今回の見学は見どころが沢山あり視野が広がりました。また各施設の方からは、消防活動への熱意が伝わり、環境が違つても思ひは一緒であると感じました。見学にご協力いただきました皆様ありがとうございました。

## 「キャンプ座間消防隊」 「座間市消防庁舎」施設見学

第四分団 第三班 横溝 憲治

二月二十六日に、第四分団及び第八分団第四班の十八名でキャンプ座間消防隊と座間市消防庁舎へ施設見学に行つてきました。

キャンプ座間は在日米陸軍の基地で座間市と相模原市にまたがる東京ドーム約五十個分の敷地にあります。正面ゲートで全員の運転免許証を確認後に通行証が手渡されました。消防隊は正面ゲート近くにあり、基地内の消火活動、救急活動にあたっています。ごついで外国人の消防隊員が現れると思ひきや、隊員は全員が日本の方でした。指令室、除染用テント、除染車両、指揮車両、ポンプ車、はしご車等を見学させていただき、隊員から熱心に説明していただきました。機材は全て米国規格となつており、ホース径もインチサイズになっていきます。汚染物質を判定する装置や放射線測定器も常備されています。

次はキャスナー飛行場に移動し、ヘリコプター(H-60Black Hawk)を見学しました。コックピットに座ることができ感激しました。

その後は完成したばかりの座間市消防庁舎にお邪魔しました。最新の消防署のため、隊員が活動に集中できるよう仮眠室、シャワールームなども充実しています。併設して訓練施設もあり、高層訓練棟や訓練用模擬住宅、煙霧路室などがあり、消防団や市民の訓練にも利用できるよう工夫されています。庁舎前にはポンプ操法の訓練スペースが設けられています。座間市消防団はポンプ操法訓練大会で全国二位の実績とのことです。署員からは消防隊と消防団の連携訓練に力を入れていきたいとお話を伺いました。



常盤会自治会の

初期消火訓練に参加

第五分団 分団長 森 茂

秋を感じさせる八月十九日、日吉地区の常盤会自治会が初期消火セットを使用した訓練を実施し、日吉出張所長と隊員二名、消防団からは小生が参加しました。



次に消火栓の取扱いを説明するとともに展示しました。放口を足で塞ぎ静かにバルブを時計回りに開ける、少し水が出たところで足を離し、そのままに溜まっている水を流しバルブを閉じてスタンドパイプを装着する、この一連の流れを展示した後、数人の受講者が操作を行いました。

消防団に入団して

第六分団 第四班 磯崎 翔太

私は、綱島で行われたイベントにて配られた入団募集のチラシがきっかけで平成二十七年十月に入団しました。日頃は会社員として都内に勤務しているため、平日の活動に参加が出来ないことも予め伝えたくて、入団を受け入れてもらいました。

地域の防災への広報活動をはじめ、今まで扱ったことがなかった資機材の取扱方法やロープの結び方、人命救助などの訓練に参加してきました。地域の防災訓練にも参加することで、防災拠点に配備されている資機材、食料の確認や、町内会や地域の方々にも協力してもらったことの重要性、防災に対する意識の持ち方を考えさせられました。



八月五日に港北消防団夏季訓練会が開催されました。この訓練会の小型ポンプ操作法に指揮者として出場することになり、およそ五ヶ月間練習を行ってきました。週一回の練習しか出来ない状況の中でも一つ一つの動きの意味を理解し、迅速かつ無駄のない動作のある行動を意識し取り組んできました。本番では自身のミスもありましたが、他の選手や指導ご支援頂いた方のおかげで第三位に入賞することができました。

平成三十年暑い夏 小型ポンプ操作大会初参加

第七分団 第六班 樋之口 直樹

私は、平成二十七年に入団し、今回、小型ポンプ操作の三番員を任せられることになりました。毎年、小型ポンプ操作大会を見学してきましたが、自分で行うのは初めての経験です。昨年、班長より二番員か、三番員をやる事と言われ、まだ内容が理解出来ていない状態で、三番員として訓練をスタートしました。



訓練早々、器具置場での待機線から集合線までの移動でさえ、ままならない状態です。ワクワクドキドキより、これから自分が、動作・操作を覚えて行動出来るのか、とても不安になりました。

また、訓練の回数を重ねていくなかで、橋本新羽出張所長の指導とおりに動くことができず、頭では理解していても、実際は動けない事、毎回反省ばかりで悩んでいた時に、所長より「練習はどこでもできますよ」との一言で、回数をこなして覚えていくことにしました。自宅や会社、歩きながらも、足さばき、方向転換、二番員との連係動作のイメージしながら繰り返し練習しました。しかし、いざ訓練場所に行くと、イメージ通りに出来ない、動けない、悔しい思いです。ところが、弱音を吐いてもフォローしてくださる所長をはじめ諸先輩方に後押しされ、徐々に身体が覚えてきました。

師岡小学校 防災体験授業について

第八分団 第六班 班長 本多 成美



六月二十三日、防災体験授業の講習を、一、二年生に行いました。各教室での講習で私にとっては初めての体験でした。

第一部は防災指導用のアニメのビデオを見せました。①火遊びはいけません。②火事になったらまった時の行動などをビデオ終了後に質問形式で一人一人答えてもらい確認してもらいました。第二部は「二一九番通報の仕方」の講習で①電話の先に通じるのは近くにある消防署ではないこと ②救急車か？ 消防車か？ ③救急車又は消防車が向かう場所の住所 ④建物の名前、部屋番号までしっかり言う(屋外、携帯電話からの通報では場所の特定のため近くの目標物、交差点、バス停、店舗名など)を詳しく聞かれます。⑤火事の時はどこで、何が燃えているか何階建てか？ ケガ人や逃げ遅れがいるかなど聞かれます。⑥救急の時は何歳位の方で、性別、話が出来るか？ 呼吸はあるか？ 歩くことができるか？ などを聞かれます。

西山孝雄本部部长 藍綬褒章受章

西山孝雄本部部长が藍綬褒章を受章されました。西山部長は昭和五十一年四月に港北消防団員として任命され、班長、分団長を歴任され、現在は本部部长として率先垂範し業務に精励しています。四十年以上にわたる港北消防団の発展と、地域防災活動への貢献が認められ、今回の栄えある受賞となりました。



西山孝雄本部部长ご夫妻

港北消防団本部・港北消防署幹部一覧

- 消防団長 飯田 孝彦
副団長 加藤 修
副団長 宮田 久男
副団長 石川 賢治
本部部长 鈴木 基祥
本部部长 西山 孝雄
本部部长 長瀬 進
本部部长 内山 秀信
本部部长 草山 恵子
本部部长 田川 博幸
本部部长 伊藤 武夫
相談役 安江 直人
副署長 堤谷 康弘
消防担当課長 戸嶋 明子
庶務課長 長谷部 宏光
予防課長 野口 浩行
予防指導担当課長 佐藤 浩幸
警察指導担当課長 小玉 洋一
警察第一課長 大塚 謙治
警察第二課長 新倉 浩一
救急担当課長 比留間 拓也
網島消防出張所長 伊藤 久史
日吉消防出張所長 藤原 信治
篠原消防出張所長 高田 剛広
新羽消防出張所長 高田 隆浩
小机消防出張所長 福田 隆浩

港北区内の火災情報 平成30年9月24日現在

Table with columns for year, number of incidents, and types of incidents (fire, explosion, etc.).

計報 「港北の消防」編集委員としてご功績のありました、池田剛第五分団副分団長におかれましては、八月十七日にご逝去されました(享年六十五歳)。ここに謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

「港北の消防」をご覧いただきありがとうございます。この広報誌では、広く区民に消防団活動を案内し活動への協力ご支援等を願っています。この広報誌では、近年、首都圏における大規模災害の発生が危惧されており、更なる地域防災の強化が必要とされている中で、消防団員の数が減少して定員に満たない状況となっています。この様なことから、港北区内における防災力の低下が懸念されています。つきましては、更なる消防団活動へのご理解と消防団員募集への協力をお願いいたします。最後に「港北の消防」に掲載していただいた皆様、編集等をまとめていただいた皆様には、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。(吉田)

第二十期編集委員

Table listing the editorial board members for the 20th issue, including names and roles.